

分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

分科会③

「乳幼児総合支援センター実現への道」

基調講演：

増沢 高（子どもの虹情報研修センター 副センター長、日本子ども虐待防止学会 副理事長）

パネリスト：

緒方 輝美（社会福祉法人慈愛会 清心乳児園 マネージャー）

安西 恵子（社会福祉法人栄光園 乳幼児総合支援センター栄光園 センター長）

横川 哲（麦の穂乳幼児ホームかがやき 施設長）

助言者：

後藤 博規（こども家庭庁支援局 家庭福祉課長補佐）

コーディネーター：

都留 和光（二葉乳児院 施設長）



分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

「乳幼児総合支援センター」実現への道
～高機能化と多機能化について～

増沢高（子どもの虹情報研修センター）

I. 専門的養育に必須となる高機能化

1. 乳児院のミッション

(1) 安心、安全な暮らしの補償と保証

- ・リズムある生活：一貫した予測可能な日課
- ・快適な衣食住
- ・恐怖と不安が低減された環境
- ・安心感の基盤構築：アタッチメント形成

(2) 子どもの権利擁護をベースとした生活文化

- ・反差別：多様性を踏まえた子どもへの配慮、
- ・発達の保証：心身の回復と健全な育ちへの支援
- ・子どもの最善の利益追求：アセスメントを踏まえた個別的な支援
- ・意見表明権：主体性の育みと意見を言えること

(5) ポジティブな情緒的交流を基盤とした生活文化

- 安心、心地よさ、喜び、感動、充実感(不信、怒り、絶望を凌駕できるように)
- 探索行動の保証
- 支え合いの文化
- その他



(4) 健康なバウンダリー感覚を育む生活(基本的な生活の枠組み)

- 自分の物を大切にする、人のものを大切にする
- 基本的生活スキルの獲得
- 情緒・行動のコントロール

2. 乳児院を利用する子どもと保護者の難しさ

- ・医療的ケアを必要とする病虚弱児
- ・アタッチメントの問題と発達の遅れやゆがみ
- ・トラウマを抱えた子ども(分離体験も含めて)
- ・精神疾患等、対応の難しい保護者
- ・親子関係構築の難しさ

3. 高機能化に必要なこと

1. 養育支援状況の詳細な把握(命に係わる)
 - 情報の共有システムと報告文化
2. 養育者の支援:感情の受け止めと自己覚知
 - 定期的、適宜な相談支援
3. チームアプローチのマネジメント
 - 支え合いのチーム作り、緊急応援体制
 - 裁量、決定システムの明確化
4. チームによる包括的アセスメント
 - 包括的アセスメント力の強化
 - スーパーバイズ、ケースカンファレンス等
5. 人材育成
6. 子どもの権利擁護を基盤とした養育文化の醸成



分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

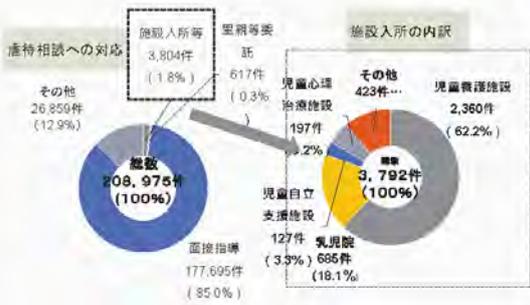
II 地域の要保護児童への早期支援の貢献する乳児院の多機能化

1. 児童虐待相談対応件数(児童相談所と市区町村)

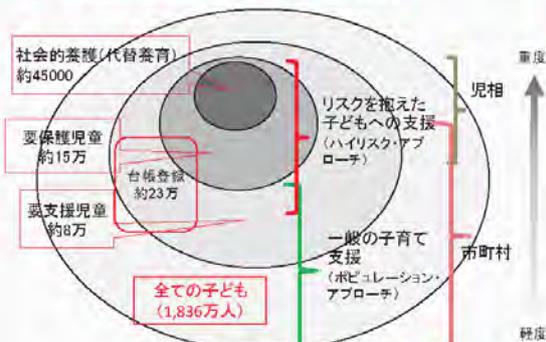


- 1989年:子どもの権利に関する条約が国連で採択
- 1994年:子どもの権利に関する条約を批准
- 2000年:児童虐待防止に関する法律制定

2. 児相の虐待相談の対応状況(令和3年度)



3. 支援を必要とする子どもの状況

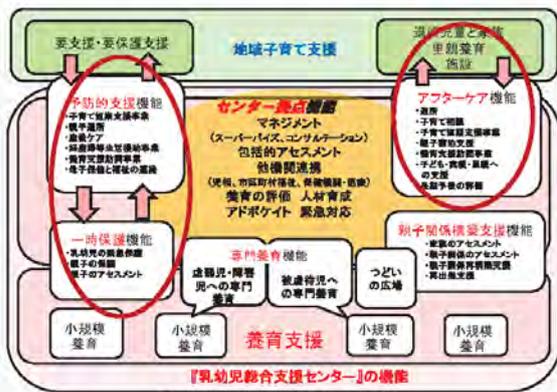


4. 児童保護から早期支援へ

- (1) 周産期支援の充実
 - 産前産後母子支援事業
 - 親子一掃での生活支援:産後ケア、親子ショートステイ
- (2) 逆境的養育環境への働きかけ
 - ACEsの把握
 - 家族に対する支援と子どもに対する配慮の開始
- (3) 早期支援の貢献する乳児院の多機能化
 - 周産期支援
 - 逆境状況の早期把握
 - 精神的課題を抱える保護者への支援
 - その他

5. 多機能化に必要なこと

- (1) 市町村への周知
 - 乳児院と子ども家庭センターとがつながる
 - 母子保健との連携(原点回帰)
 - 保育園との連携
- (2) 市町村の事業を知り、活用する
 - 子育て支援事業
 - 母子保健事業
 - その他事業(貧困対策、ひとり親対策、自殺対策など)
 - ソーシャルワーク力の強化
- (3) 専門養育を踏まえた支援の提供
 - ショートステイ、面接、訪問等具体的な手立ての提供
 - 包括的アセスメントの提供
 - アセスメント力の強化
- (4) 要保護児童対策地域協議会への積極的参加
 - 全体会議、実務者会議、個別会議



4. 地域の関係機関との協働による早期支援の実現 母子保健、保育園と連携した早期支援の展開



分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

ご清聴ありがとうございました。

分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

乳幼児総合支援センター 実現への道

社会福祉法人慈愛会 清心乳児園
マネージャー 緒方輝美

清心乳児園について…

- 福岡県内の乳児院は6箇所
- 当園開設 昭和57年4月1日
- 入所児童 定員20名
(医療的ケア児専用棟 定員4名含む)
- 一時保護専用棟いちご 定員4名
- OHANA (里親支援機関)
- Link (母子支援機関)

乳児院とは…

児童福祉法第37条に規定された児童福祉施設

乳児(保健上、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、幼児を含む0歳から6歳までの子どもが生活)を入院させて、これを養育し、合わせて退院した者についてその他援助を行うことを目的とする施設とする




乳児院に求められていること…

- ①こどもの生命を守り育て
- ②社会的養育を必要とする乳幼児の受け皿となる
- ③保護者・家族への支援、地域への子育て支援
- ④こどもの権利を擁護する代弁者 (アドボカシー)



一時保護専用棟いちごについて

児童相談所
↓
一時保護委託
↓
一時保護専用棟いちご
↓
本園、家庭、里親、他施設など

「一時保護専用施設」とは…
通常は児童相談所に付設されている「一時保護所」にて子どもを保護し「心理的・医学的・社会的・行動」診断(アセスメント)を行う。
しかし、一時保護所には、乳児に必要な設備や職員配置がなされていないため、乳児は緊急の医療の手立てが必要な場合を除き、乳児院に一時保護を行うことが事例となっている。
現在は定員数内の「一時保護委託入所」の受け入れをしている。
施設が一時保護専用施設を持つと…
空きがあれば緊急も含め24時間体制での受け入れとなり、よりアセスメント力が求められる。

清心乳児園について…

福岡県南部、筑後平野の北部にある町、大刀洗町(たちあらいまち)
人口は約15000人
大刀洗町は、子育て世代の移住の推進、少子化対策対応中
日本有数の懸れ川、筑後川がある
南北朝時代、菊池武光が小川で太刀を洗ったことが「太刀洗」という地名の由来
清心乳児園が属する「社会福祉法人慈愛会」には、同敷地内に児童養護施設、医療型障害児入所施設があり、福岡県糸島地区に「特別養護老人ホーム」「養護老人ホーム」が、宮崎県源郷地区に「小規模多機能型居宅介護事業所」がある



<h4>ショートステイ (0歳～就学前)</h4> <p>保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった子どもを、施設において宿泊を伴うかたちで預かる制度。</p> <p>委託契約市町村: 12市町村</p>	<h4>デイケア (0歳～就学前)</h4> <p>保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった子どもを、施設において日曜日で預かる事業。</p>
<h4>産後ケア (1歳未満)</h4> <p>産後のお母さんとお子さんが産後回復のための休養をとり、授乳や育児・お子さんの養育について助産師等に相談できる制度。</p> <p>委託契約市町村: 6市町村</p>	<h4>親子宿泊 (0歳～就学前の子どもとその家族)</h4> <p>育児疲れからの休息、または子どもの養育や関わり方について悩んでいる保護者が親子で宿泊しながら相談できる事業。</p>

利用目的は、リフレッシュしたい、育児相談をしたい、家族の入院、出張、出産など、さまざま

個々に応じたアセスメントを通して、家庭、関係機関につなぐ



分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

入所児について

児童相談所
↓
一時保護委託
↓
一時保護専用機いちご
↓
本園へ措置入所（小規模保育）

「措置入所とは…
児童相談所が家庭での養育が困難な子どもを児童福祉施設などに一時的に入所させる制度」

より家庭的に養育するため、小規模（4名）での生活が望ましいとされている。近年、発達障害や身体的障害などが増え、医療的ケアや教育（リハビリ）を必要とする専門的ケアが求められている。そのため、保護者や地域との連携（ペアトシ、児童、保育園、病院、訪問、ヘルパーなど）が欠かせないが、家庭復帰が難しいケースも珍しくなく、次の生活場所へ繋ぐことになる。しかし、乳幼児を受け入れてくれる障害者施設は少ない。乳児院でありながら、年長児（3～6歳）も増えつつあり、より専門的スキルが求められている

連携支援事例

○ 本人よりりんしん110番Linkへ相談あり。妊娠を理由に解雇、社宅を追い出され住む場所がなくなったことで、妊娠中よりLinkの居宅支援にて受け入れ。入所中は、母の身体のケアや、育児手技へのアドバイスを行う。
出産後は、地域で子どもと暮らす環境を整えるために、母のみ退所、子どもは一時保護入所となる。その後、家庭引き取りとなり、ショートステイ、デイケアを利用しながら地域での見守りを続ける。

様々な事業を組み合わせながら妊娠期から途切れない支援を行う

Link（妊産婦生活援助事業）について

背景と目的

- 虐待による死亡事例のうち、0歳児の割合は約4～6割と高い割合を占める
- 国の「虐待死亡事例等検証報告」では児童の虐待死を招いた保護者の要因として、妊娠中からの孤立、産前産後の体調や家庭環境の問題などが指摘されている。
- 福岡県では、予期せぬ妊娠に悩む妊婦や妊婦健診を受けずに出産に至った母子（特定妊婦等）などに対し、妊娠前から出産後まで一貫した支援を行い、児童虐待の未然防止を図る。

連携支援事例

措置児の里親委託が決定、園の養育者とOHANA（里親専門相談員）と連携し、実親と里親、実子などそれぞれの支援を行い、繋いでいく

Link（母子支援）で出産、特別養子縁組としてOHANAと連携し、繋ぐ

OHANAと連携し、里親実習を受け入れている

法人内心理士、看護師、栄養士と連携し、地域向けに集う場所として、専門の先生をお呼びして定期的に「子育てサロン」レクレーションを行っている。そこで育児相談を受けたり、支援サービスを紹介し、家庭養育の援助を行っている

市町村との委託事業を受け、法人内心理士による発達検査も行っている。

Linkで行っていること

妊産婦相談窓口の設置	産前産後の支援	住まいの 一時的な提供
<p>「りんしん110番Link」</p> <ul style="list-style-type: none"> 受付時間：毎日9：00～20：00 受付方法：電話・メール・LINE 相談無料、匿名相談可 	<ul style="list-style-type: none"> 病院、手続き等への同行支援 体調管理、育児指導、就職支援等、支援計画に基づく支援 病院、市町村、児相相談所、福祉事務所等と連携し、支援体制構築 女性のLSW 	<ul style="list-style-type: none"> 一時的な生活に必要な妊婦・母子に対し、住まい提供、日常生活支援 女性相談所 一時保護委託 Link 地域・母子生活支援施設など

予防的機能、アフターケア機能を使った支援事例

- 母が育児疲労の訴えで、ショートステイを利用。しかし、聞き取りなどをしていくうちに、子ども自身に発達の問題があること、経済的困難、子どもに手が出ていることが発覚。→児童相談所へつなぎ、一時保護となる。
- 一時保護から家庭引取となった家族。母の養育意欲は高いが、元々抱え込みやすい性格でもあり、精神科への通院を継続している。→定期的にショートステイやデイケアを利用し、園と市町村で見守りを継続している。
- 子どもが1歳前まで産後ケア利用、その後はショートステイやデイケア利用に切り替え、在宅での子育て支援を継続している。

OHANA（里親支援機関）について

福岡県から、久留米児童相談所および大牟田児童相談所管内の里親養育包括支援事業を受託し、里親・親子・実子の支援を行っている。
（2025年4月から里親支援センターとして活動予定）

2018年7月に立ち上げ、「子どもに寄り添う仲間を作ること」「子どもの育ちをサポートしたい」「子どもも大人も一人ひとりが大切にされる地域社会を作ること」を大切に活動している。



分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

これからの課題…

- ・専門養育の質の担保が最重要
- ・体制強化、機能理解
- ・権利擁護
- ・人材育成（スキルアップ）
- ・多職種研修、交流、連携

ご清聴ありがとうございました

分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」



②養子縁組里親支援部門

ブレス・ユウ

- ・里親リクルートからアフターフォローまで
- ・養子縁組里親向け研修
- ・裁判に関する支援
- ・県外からの特別養子縁組希望児の受け入れ



乳幼児総合支援センター栄光園とは

- ・大分県で唯一1カ所の乳児院
- 2024年5月から乳幼児総合支援センターへ名称変更
- ・家庭養育推進自治体モデル事業 (大分県)
- ・全県下の里親の支援や地域支援

地域支援部門・子育て支援部門

- ・ショートステイ 213件
- ・里親レスパイト 44件
- ・親子ショート 15件
- ・プレママ プレパパ 15件
- ・離乳食教室 2件
- ・地域イベント 5回 28組

※5月から2月末までの数字



5つの部門に分けている

- ①入所支援部門 (乳児院)
- ②養子縁組里親支援機関
- ③地域支援部門
- ④子育て支援部門
- ⑤こどもの居場所支援部門



大分県各市町村の位置と事業



大分県の人口 109万2278人 (出生数527) R6.2.1 (1月分)
 子育て短期支援事業 17市町と契約

- ①別府市 人口11万2810人(出生数51)
養育支援訪問事業
子育て世帯訪問支援事業
児童育成支援拠点事業
子育て短期支援臨時特別事業(親子ショート)
発達相談会保育士派遣業務委託
- ②津久喜市 人口3万1585人(出生数9)
養育支援訪問事業 送迎随時
- ③豊後高田市 人口2万1550人(出生数15)
見守り支援強化事業
- ④国東市 人口2万4665人(出生数3)
- ⑤津和野市 人口2万7342人(出生数15)
子育て短期支援臨時特別事業(親子ショート)
- ⑥杵築市 人口2万6214人(出生数8)
親子ショート
- ⑦津久井町 人口3万2268人(出生数21)
養育支援訪問事業

①入所支援部門 (乳児院機能)

- ・措置・一時保護の人数
- ・緊急一時保護の里親からの入所
- ・保護者支援



⑤こどもの居場所支援部門

- ・児童育成支援拠点事業 (別府市との契約)
9家庭 17名の利用 (20名定員)
- ・こども食堂『くろみ』毎月第3土曜日



分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

◎開始後見えてきた課題

- ・ 短期間でのアセスメント
職員のアセスメント力
- ・ 繋がる支援の重要性
- ・ 養子縁組里親機関の充実
- ・ 事業の展開
- ・ 人材育成

◎将来的に望むこと

- ・ 特別養子縁組に特化した里親支援センター
- ・ 乳児院での児童家庭支援センター機能

分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」

**令和6年度
第7回FLECフォーラム**

第3分科会 テーマ「乳幼児総合支援センター実現への道」

妻の穂乳幼児ホームがやき
全国乳児福祉協議会 副会長 横川 篤

全国乳児福祉協議会

- INDEX**
1. 全国乳児院入所状況実態調査から見えるもの
 2. 地域から必要とされる乳児院となるために必要な制度・施策の充実の必要性
 3. 「乳幼児総合支援センター実現への道」



- 1. 実態調査から見えるもの**
- 入所定員が減少し、暫定定員数も減少している。
⇒児童相談所からの措置を待っているだけの姿勢では、入所定員削減による職員数の削減に陥ってしまう。
 - 退所理由の31.5%が家庭引き取り（減少傾向）今から34年前の平成2年は64.8%でした。里親委託・養子縁組が31.2%（増加傾向）、他施設への措置変更が3.7%（横ばい傾向）
⇒ここ数年家庭引き取り率が減少してしまう背景は何か？虐待？親の精神疾患？こどもの育てにくさ？そもそも子育てに対する否定的感情？経済的貧困？
⇒乳幼児総合新センターの予防的支援機能を充実させ、地域の市区町村との連携強化が必要不可欠です。
⇒増加傾向にある里親さんに対する支援の強化を乳児院の責任として実施していかなければならない。（里子支援の視点を重視して）
 - 一時保護委託が増加している。
 - ショートステイ・レスパイトが増加している。
⇒親子を分離しないで支援をする具体的な制度を充実させる必要あり。

- 2. 地域から必要とされる乳児院となるために必要な制度・施策の充実**
- 一時保護委託受け入れ児童の増加
⇒一時保護専用棟あり（令和5年度調査では全体の11.6%の17施設）
⇒暫定定員の計算には含まれない。
 - 宿直ではなく夜勤体制で養育する必要があるが、2.5名の職員配置のみままであり、本体施設からの応援職員が必要不可欠。（夜勤体制での運営ができる状況になる必要あり。）
⇒乳児院のアセスメントシートの記入を徹底し、児相の援助指針につなげたい。
 - ショートステイ受け入れ児童の増加
⇒子育て短期支援事業の拡充として専従人員配置支援が書かれているが、一部の都市部の乳児院に配置されているものの、地方の乳児院においては配置が進まない現状。
 - 妊産婦生活支援事業の充実
⇒令和6年10月1日時点では全国147か所の乳児院のうち8施設の乳児院しか実施できていない。
 - 市区町村の家庭支援事業を具体的にどのように発展させられるのか

分科会③「乳幼児総合支援センター実現への道」



- 全国の乳幼児が、それぞれの地域から必要とされる存在になるために、何をどのように取り組み、強化するのか考えたい。
- そして、それぞれの取り組みから必要となる施策のあり方について、活発な意見交換を充実させ、
- 『乳幼児総合支援センター』の実現に向かって、組織が一丸となって元よく取り組みを充実させることが、今後の人材確保や職員の定着に重要だと感じる。
- 個々の子どもや家族（里親含む）に合わせたオーダーメイドの支援を生み出す力が今まで培ってきた乳幼児の魅力です。是非とも磨きをかけましょう!!

3 「乳幼児総合支援センター実現への道」



3 「乳幼児総合支援センター実現への道」

● センター拠点機能の重要性

- マネジメント（スーパーバイズ・コンサルテーション）
 - 養育者の孤立や抱え込みを防止し、小規模養育で尽力する養育者を支える機能（認め合い・支えあい・励ましあう気持ちで）
 - 養育の評価と職員自身の振り返りの充実→職員定着への取り組み強化
⇒乳幼児の権利擁護の視点においても養育の評価と振り返りは重要
 - 親子関係構築支援の現状と課題について議論すると共に、アフターケア機能を充実させるために、対象年齢を拡大する視点を持つ必要がある。
 - 社会的養護が必要な子どもたち一人ひとりのライフストーリーがブツ切れにならないよう、「つなぐ」スペシャリストになるための取り組み強化⇒社会福祉法人としての強みを発揮したい。
- 例) 社会的養護関係施設との連携・協働
児童家庭支援センターとの連携・協働
里親支援センターやフォスタリング機関との連携・協働等

3 「乳幼児総合支援センター実現への道」

● センター拠点機能の重要性

- 包括的アセスメントを重視することによって、乳幼児総合支援センター内における各機能の支援の方向性を何度も確認する。
- 包括的アセスメントの内容は、関係機関である児童相談所や市区町村の子ども家庭センターとの連携・協働に役立てることができる。特に一時保護時のアセスメント内容をシートに記入し、児童相談所の援助方針や援助指針に生かしていただけるシステムを構築したい。
- 上記のアセスメントシートは養育里親への委託にも役立てることができる。
- 高機能化（入所機能のあり方）を専門養育機能の充実・親子関係構築支援、一時保護機能の充実・アフターケア機能の充実ととらえる。
- 多機能化を里親支援・妊産婦等生活援助事業・予防的支援・地域支援ととらえた場合
⇒それぞれの機能が十分に機能するための措置費制度や支援費制度を具体的に確立させる必要がある。

分科会④「里親養育の質の向上を目指した里親リクルート」

分科会④

「里親養育の質の向上を目指した里親リクルート」

パネリスト：

渡邊 守（特定非営利活動法人キーアセット 代表理事）

新井 淳子（一般社団法人こどもみらい横浜 会長、
横浜市フォスタリング機関さくらみらい 担当理事）

長縄 良樹（社会福祉法人日本児童育成園 統括施設長）

岩朝しのぶ（認定 NPO 法人日本こども支援協会 代表理事）

北川 聡子（社会福祉法人麦の子会 理事長、日本ファミリーホーム協議会 会長）

助言者：

藤井 康弘（代表幹事／元 厚生労働省障害保健福祉部長）

コーディネーター：

相澤 仁（共同代表／山梨県立大学・大分大学 特任教授）



分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

里親養育の質の向上を目指した里親リクルート “里親支援の視点から”

特定非営利活動法人キアセツ
渡邊 守

協働者をリクルートすること

協働者を探すのと同じくらい大切なこと



ソーシャルワーク（里親を支援する側）が

準備を整えていること

『理念』的なことを考えてみる

こどものハイニーズまたはマルチニーズに応えるための里親養育の
質の向上が求められている
これに応えられる資質をもった里親をリクルートする



これは『社会的養育』に沿ったもの？

『情緒』的なことを考えてみる

里親になるには、こどもを受け入れ
養育を簡単にはあきらめず献身をしめす
『覚悟』が求められる



里親自らの『覚悟』が肯定されるのはわかるけど・・・
『覚悟』って求めるもの？『覚悟』が求められるのは里親？

協働者をリクルートすること

- 「里親制度」を知ってもらうこと？
- 「里親になりたい人」が現れるのを待つ？
- 「里親になってくれる人」を探す？

ケアワークとソーシャルワークの協働その協働者を獲得する

分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

第7回FLECフォーラム
第4分科会
里親養育の質の向上を目指した里親リクルート

一般社団法人こどもみらい横浜会長
フォスタリング機関さくらみらい統括責任者

新井淳子
2025年3月15日

2024 (R6) 年度リクルート結果

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
親戚候補会	3組	4組	17組	22組				19組	2組	17組	17組	5組	146組
里親のふれ				4組	5組			13組	5組				27組
個別相談				金-午親	金-午親			2組	7組				10組
親定式								トークセッション					7組

共催3家庭の再登壇、親子のいる家庭の再登壇、養育者の再登壇が確認されている。
会期：平日、土日・祝日から月曜開催3日計。

自己紹介

2001年 横浜市養育里親認定
2013年 (一社)こどもみらい横浜(里親会)代表理事就任
2022年 特定非営利活動法人さくらみらい横浜設立
2023年 4月 高校生専用法人型ファミリーホーム開所
9月 横浜市フォスタリング事業受託

改善点

- Googleアンケートで意思確認
- 今後のご意向についてお聞かせください。
- ①次のステップに進みたいので個別相談を希望する
- ②もう少し説明を聞きたいので個別相談を希望する
- ③まだ迷っている
- ④この先に進むことは考えにくい
- ⑤その他

①・② 追加の電話・メール
③ 時期を置いてメール

2025年4月～2月
横浜市里親制度説明会

里親普及促進・リクルート事業

1. 制度説明会 年層6回以上
対面・オンライン・金曜夜 開催
2. 里親カフェ 年層4回
里親を囲んでの制度説明会
3. 里親制度啓発トークイベント
里親月間開催
4. 個別相談(随時)

質の向上を目指したインテーク

ポイント 1.
自分の親タイプを知る
★基礎研修 GW アイブレイク
あなたはどの親タイプ？

ポイント 2.
子どもの視点、気持ちになる
★登録前研修 GW
委託初日のこどもの気持ちを考える

里親制度啓発トークイベント

10月里親月間開催
里親会(こどもみらい横浜)とコラボ

10/14 13:00-15:30
横浜市民会館
アトリウム

里親適性検査があるとよいのでは？
里親には向き不向きがあるのではないが

里親の資質とは

柔軟に自分を認める

まあいいか

創造力 想像力 忍耐力 共感力

分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

まとめ

里親養育の質の向上を目指したリクルートとは

養育の知識やスキルを持った人をリクルートするのではなく、里親の資質を有する、里親に向いている人をリクルートしたい。

子どもが安心できる家庭を提供するためには、どのような家庭が当該児童に良いのかを考え、そのために柔軟に家庭を変えられる里親が必要。

里親の入り口は広く門戸を開く方が資質のある人が見つかるのではないかと
実際の養育は日常的に養育にかかわるチームで！

9



ご清聴ありがとうございました

特定非営利活動法人さくらみらい横浜
フォスティング機関さくらみらい
045-334-8720
npo-sakuramirai@outlook.jp
<https://sakuramirai-yokohama.org/>
<https://sakuramirai-satooya-yokohama.org/>



分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

第4分科会
『里親養育の質の向上を目指した
里親リクルート』

社会福祉法人 児童養護施設 日本児童育成園
乳幼児ホームまりあ
子ども家庭支援センターぎふ「はこぶね」
里親支援センターはこぶね 4月『開設』
統括施設長 長 純 良 樹

現在の社会福祉法人
日本児童育成園の事業(創立130年目)

- ◆児童養護施設 日本児童育成園定員64名 1895～
創立125年記念事業として全面小舎に改築 (2018)
 - ◆地域小規模 児童養護施設 定員6名 2023～
 - ◆乳児院 乳幼児ホームまりあ 定員20名 2001～
 - ◆児童家庭支援センター ぎふ「はこぶね」 2000～
 - ◆母子生活支援施設 サンフラワー華陽20世帯 2023～
 - ◆自立援助ホーム しおん 男子児童定員6名 2013～
 - ◆児童館 市立長良児童センター指定管理運営 2008～
- 里親支援センターはこぶね 開設2025/4**

唯々永いだけの施設職員が
何言ってる

- * 児童養護施設職員55年
- * 児童家庭支援センター25年 里親支援17年
- * そんな立ち位置での願い
- * ~最初に~
- * 里親の質を問う 希望・対象者の選抜 振るい
- * 向上とは一緒に育つ・育てる
- * 里親自身を孤立させない サロンや研修での交流
- * リクルートも育成も ガツガツ行くものではない。

家庭的養護の完成形に挑戦
日本児童育成園

- * ホームに一人の**住み込み職員配置** 児童6人に4~5人
- * 担当職員の固定 持ち上がり 継続養護 別れ体験は最少
- * ショックは少ない方がよい 幼児~高校卒業まで継続担当者も
- * **いつまでも守ってやるぞ 還って来い**
甘えたら良いんや 生涯付き合う
- * 養護の原点 共に生きる 共に成長する
- * 頼まれる保証人は **全て断らない基本**
- * (借家・車の購入・家ローン・就職など)

自己紹介に換えて
乳児院の“中”で育った体験から~

昭和25年岐阜県立乳児預かり所(乳児8人位)の創設
岐阜市内母子寮の一室を使用し 知事からの要請で最初の
職員として両親が着任 住み込み部屋に家族3人で
赤ちゃんと共に生活。翌年に県立乳児院の新築
幼児期から小学校卒業時まで敷地内職員住宅6室に

突然の措置変更という“虐待”

2歳の誕生会のその日の内に
全く知らない所に **可哀想な事をする大人**
継続養護の大きさ 県の民間委託により乳児院を新築併設
慣らし保育に十分な時間を掛け、
ショックの少ない軟着陸による措置変更を

幼児集団養護の悲劇

~体験から~

化石の様な養護観

- * **子どもの最善利益の保障**
- * **継続養護 担当の大人が変わらない原則**
- * (回想)昭和42年 自慢の幼児専用棟を開設 20人幼児雑魚寝
- * 入浴担当 1時間半で20人幼児を 戦いの時 おぼれずに…
20年掛けての念願の幼児集団を分解
幼児~高校生縦割り・男女混合ホーム

「兄弟は一緒」大前提バラバラは虐待でしょ

日本児童育成園

- * 創立130年を迎えた老舗孤児院
- * 明治39年には伊藤博文から命名

日本育児院

全国に分院 外国にも 16カ所
小規模 地域分散の実施【明治期】

みんなの小径



分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

ただ子どもの傍に居るだけ

- * 住み込み16年間(家族と共に)
- * 55年目の児童養護職員 園長28年
(日枝さんにならん様に)
- * **子どもたちに還れる人と場所を用意**
- * **パーマネンシー保障 実家機能**
- * **替わらない大人が居る安心**
- * 現在も住み込み制を固持する

児童養護施設って そんなに悪いとこ？

- * 個と集団のすばらしさが共存
 - * 冷暖房完備の個室が用意され
 - * 目の前で大好きな大人が調理
 - * 温かい食事 年齢に合わせた 個別プロ
 - * 一歩外に出れば、昔のたまり場がある
鬼ごっこ・なわ跳び、ドッジボール・サッカー
 - * ダイナミックな仲間との活動体験
毎年、海水浴・キャンプ・スキーなど集団プロ
- こんな楽しい所はない！！**

赤ちゃんから大学生まで

- * 県立乳児院の民間委託により敷地内に開設。
- * 突然の措置変更の虐待もない。
- * 可能ならば乳幼児から 高校生の男女混合ホームを創りたい
- * 法人型ファミリーホーム構想へ
- * ホーム担当者は ファミリーホームの意識を

一時保護期間は短く

- * **当たり前の事！！**
- ずっと先が見えない不安が続く
- 児相での半年・1年近い一保は虐待！ 大人のサボリ**
- 仕事してない 丁寧にも限界**
- 子どもが可哀想すぎる

実家機能を無くさない 愛する ともちゃん

癌末期の女子卒園生 43歳
死んだら園の墓に入れる？
見舞いに駆けつけた元ホームの仲間
ベットを囲まれて、笑顔で
『私は幸せやね！こんなに多くの身内が
おって！』

在籍児童の里親委託

- * 我が園10年間に在籍児童の里親委託なし。
- * 県内(10)でも2~3人 紐付き入所は別。
- * 里親支援専門相談員の働きの無駄遣い

数ヶ月の委託一時保護後の里親委託
里親宅から帰りたい！
仲間が居ない 楽しくない 行事がない

継続からの安心

- * 全ての支援は 信頼から
- * 信頼は 継続から
- * ワーカーは永く勤務が基本
- * いつも同じ顔が近くに安心
- * 『養護の原点』

子ども家庭支援センターぎふ 「はこぶね」



分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

子ども家庭支援センターぎふ
『はこぶね』

電話相談・来所相談・訪問相談
トワイライト・緊急ショート 子育て支援の市町対応、
入所措置へ、在宅ケース指導委託、入所後の親支援、
家庭復帰 アフターケア **フォスターリング機関**

地域社会の期待に応える施設づくり

当てにされる職員集団(専門性)子育てプロ

年中無休・24時間つながるハードルの低い子育て
パートナー(児童家庭支援センターの基本姿勢)

『はこぶね』と里親の連携

- * 里親 タイムリーなレスパイトを望む 即対応
- * 同じ目線で丁寧な引き継ぎ センター内にショート
- * 市町連携コーディネーターとして
- * 里親調整役としてのセンター職員の信頼
- * **** 市町里親ショートステイ受け入れの大きなメリット**
- * 乳児も含めた兄弟委託が可能
- * 同地域により通学(園)が可能 その後も実家機能へ
- * ショート延長による一時保護・委託へと継続
- * 生活の場に変化はない 最善の利益保障

岐阜県(児相)との信頼関係

子ども家庭支援センターぎふ『はこぶね』

- * 全国2番目に開設(現在180カ所) 25年目迎える
- * 全国役員16年 全児家セン協と共に歩み、育てられ。
- 県委託 **登録前養成研修会**の運営 15年間
- 県内**里親は全員顔見知り**に互いの安心感

- * 児相との連携 仲介役 登録前面接
- * 措置協議に参加

質の向上

里親自身の意識改革を

- * 何でも“おんぶにだっこ”の時代は終わった。
- * 一人歩きをして欲しい だれかが何とかでない
- * 里親だからと甘えすぎ。 過保護すぎるのでは
- * 岐阜県未委託率 全国トップ(2年前)
- * 養成・登録前の段階での選抜 面接により振るい
- * 未委託里親の整理 委託できない事情の説明
- * 誰が鈴を付けるか? (待っても委託はないよ)
- * **専門職としての意識を持って欲しい**

里親の質

- * ドンドン里親 増やせばの時は 終わった
- * 希望者は誰でも養成研修の受講可能 NO
- * もっと受付時のアセスメントに時間を掛ける必要
- * 目をつむった審査会通過も課題
- * **質の向上** 少数精鋭主義への転換
- * 確実に選抜し、里親世帯を育てる ショートステイ
レスパイトの受け入れ経験 圏内 活動率75%

里親リクルート実践と育成

- * 市内バスの窓に一年間広告版
- * 近隣市役所ロビーでのパネル展啓発
- * 関心のある人を先ず発掘 数ではない
- * **質** 先輩との交流 サロン参加
- * 研修・登録時に客観的データでの**振るいが必要** 施設実習の評価
- * 里親養育の**質** 体験を重ねる事で自信

フォスターリング機関
実績から『民間の強味』

- * 枠にとらわれない はみ出しも許される
- * トコト付き合える 民間 異動退職はない
- * 家族 特に実子との面談し、思いを知る
- * **里親とは 子どもに合わせる生活が続く**
- * **頑張らんと合わせられん事を知らせる**
- * ペット優先の里親も居る 平気であなたは2番目の
- * 子どもよ (笑い話) 熱心な登録者
- * 誰か居ないかと再三の施設訪問
- * 待ちきれずに“サル”を飼う

市内バスのポスター



分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

里親の生の声

(なま)

- * 里親同士の交流の機会を多く作って欲しい
- * 定期的な家庭訪問を希望する
- * (里親委託後もセンター指導委託として継続)
- * 中高生との関わり方を教えて欲しい
- * 子どもの状況を長く知る はこぶね職員が近くに居て 支えてくれる安心がある
- * 高校生の話し相手として 相互理解の役割を
- * 里子だからと遠慮している中高校生の思いの代弁者として

法人立のファミリーホームを

- * 現に実施するホーム開設者の楽しみ・喜びが、
- * 上手く伝わってない。
- * 後継者問題で頭がいっぱい。
- * もっともっと嬉しさを前面に出さないと、新規開設者を期待できない。
- * 指導監査の簡略化 養育里親に戻りたいの声
- * 法人職員としての身分保障ができる
- * チームでの養護の強味 継続性 ホームの閉鎖はない
- * 現・地域小規模児童養護施設の職員配置に近づける訴え

その子の人生に関わる 楽しみを 責任を

信頼関係の再構築
全ての支援は信頼から
信頼は継続から
永く付き合う覚悟を

分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

#10月4日は里親の日

里親の声
本当に必要な支援

特定非営利活動法人 日本子ども支援協会
代表理事 岩朝しのぶ

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

毎週日曜6:15-6:45 FM大阪『こどもてらす』

FM大阪
こどもてらす
~To Zero for Children~
トーク＆ライブ～子どもの虐待死ゼロのために
2/26(日)17:00～ 聴きあゆめたまご 9割 視聴企画
DJ トークゲスト ライフゲスト
大塚由美 つかの義士 志保花
岩朝しのぶ (MC) @shinobu_rock

2月23日
特別番組
【SBI子ども希望財団 presents こどもてらす+】
FM大阪 & TOKYO FM オンエア

#10月4日は里親の日
日本子ども支援協会の活動

- 1. 里親制度の普及啓発**
10月4日里親の日を起点とし、国が定めている10月の里親月間に関係者で全国100+所規模で実施している「全国一斉里親制度啓発キャンペーン」、SNSでも拡散している。
プロジェクトページ: https://npojca.com/works/cp_onelove.html
- 2. 児童虐待防止 (ORANGEWALK)**
11月の児童虐待防止推進月間に一般の参加者はアプリで学数を計測し、自分の学数を寄付する。子どもの支援に関わる他団体と連携、集まった寄付を参加団体に分配し、各団体の組織や活動を強化することで子ども支援全体のスケールアップを図る。2024年は約35,000人が参加、2025年は4万75千人が参加。
プロジェクトページ: <https://npojca.com/orangewalk/2023/index.html>
- 3. 里親へのトレーニング**
里親コミュニティサイトONELOVEでオンラインセミナーを毎月開催。
セミナーレポート＆アーカイブページ: <https://jone-love.jp/report/index.html>
- 4. 里親の相談窓口 (ピアサポート・専門家)**
毎週土曜日オンラインサロン開催。3ヶ月に一度オンラインにて弁護士と公認の理士の個別相談実施。
- 5. 里親の組織形成** = 里親コミュニティサイトONELOVEの運営。現在、現役里親1,076名登録。

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日
啓発に協力して下さる著名人の皆さま

茂木健一郎 さん
糸井重星 さん
ユージ さん
清口勇児さん、BD選手の皆さま

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日

里親制度の啓発

★全国一斉里親制度啓発キャンペーン
★著名人の協力による拡散

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日

昨年11月にXにて里親制度の認知度アンケートを実施
32,741人が回答。

ONE LOVE	25%
名前を聞いたことがある	49.4%
内容もほとんど知らない	19.2%
内容もよく知らない	3.3%
知らない	0.58%

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

北九州
浜松市
栃木
東京・市ヶ谷
大坂なんば高島屋前
群馬県
明治生命のみなさん

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日

2. 里親への支援

『オンライン里親会』

ONE LOVE

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」

#10月4日は里親の日

セミナー講演会開催実績 (令和7年3月7日現在)

・第1回 川瀬佳一氏	・第16回 西村英一郎氏	・第31回 藤井 康弘氏
・第2回 奥山真紀子氏	・第17回 藤澤 陽子氏	・第32回 清水聡子氏
・第3回 長田淳子氏	・第18回 伊藤嘉余子氏	・第33回 井上登生氏
・第4回 西澤智氏	・第19回 渡辺結美氏	・第34回 塩尻真由美氏
・第5回 橋本祥子氏	・第20回 田中浩之氏	・第35回 藤林 武史氏
・第6回 相澤仁氏	・第21回 田中浩之氏	・第36回 上藤渡和宏氏
・第7回 菅原ますみ氏	・第22回 松崎佳子氏	・第37回 香橋 敬一氏
・第8回 伊藤嘉余子氏	・第23回 岩崎しのぶ	
・第9回 永野 収氏	・第24回 東郷家真での経験者	
・第10回 北川聡子氏	・第25回 越田雅章氏	
・第11回 河内美舟氏	・第26回 米澤好史氏	
・第12回 矢野茂生氏	・第27回 相澤仁氏/伊藤嘉余子氏	
・第13回 加藤尚子氏	・第28回 河野 洋子氏	
・第14回 橋本真由氏	・第29回 伊藤 嘉余子氏	
・第15回 野口啓示氏	・第30回 小松秀夫氏	

延べ参加者数 合計 4,089名

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日

オンライン里親サロン 240回 開催

(2025年3月7日現在)

累計参加者 5,673名

★毎週土曜日21時-0時
★毎回30名-40名が参加

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日

良くある相談内容

経験の浅い里親

★特に多いのは愛着障害と発達障害、被虐児の特徴等を理解していない事による疲弊、挫折。

- ・委託直後の子どもとの関わり
- ・可愛く思えない
- ・試し行動

経験豊かな里親

- ・思春期の揺れ
- ・実親との関わり
- ・兄弟との関わり
- ・里親会の運営
- ・突然の一時保護や解除

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

#10月4日は里親の日

提言まとめ

1. 里親リクルート

- ★里親制度の一般認知率5.9%。里親制度を知って里親になる率0.58%
- 認知率と同様に里親になる率の向上も同時に進めなければならない。
- ★研修内容の統一化。登録前研修、5年更新研修について
- ★実習先は児童養護施設ではなくファミリーホームへ

2. 里親への支援

- ★様々な背景を背景に、発達や愛着に課題を持つ子どもが住みかされてくる里親。
- 事前に特徴や対応を伝え伴走していく事が必要。
- ★里親会の運営(交流会、ブログ大会、周年事業等)の企画運営の負担が里親に重くのしかかっている。
- 里親会の事務局をファシリテティング機関に設置する事で里親が養育に専念できるようサポートしてほしい。
- ★レスパイトを取得出来るよう、ファシリテティング機関による速やかなコーディネート。
- ★地域によって里親への対応、金銭的負担など格差がある。

日本子ども支援協会
Japan Children Support Association

分科会④「これからの里親制度について本音で語り合おう！」



◎むぎのご緊急里親委託状況

令和6年7月1日～令和7年1月31日現在

- ・乳幼児緊急里親4名（応募者約30名から選定）
- ・むぎのコフォスタリングに所属
- ・赤ちゃん用品・レスパイトを行っています。
- ・委託乳幼児数 14名
- ・稼働日数 6ヶ月間で合計597日
- ・里親1組あたり月平均 約2.1日稼働

解除後の経過	人数
養子縁組里親への委託	2名
家庭引き取り	5名
民間委託機関	1名
養育里親への委託	2名
未定（継続中のため）	4名

日本の里親の地位は？

- ・里親は里子を、自分のプライベートな空間に招き入れ、社会的な養護を行う。
- ・家庭養育の良いところ何よりもアタッチメントメント形成により、自他共への信頼感、人間としての土台が自然に育つ場であり、こどもの一生に影響する。
- ・社会への信頼と自立とつながる。
- ・家庭養育のリスク何かあった時は脆弱であり、クローズになりやすい、その家の子育ての価値観に影響されやすい。

里親家庭は、しっかりと社会的養護を担う役割がある

- ・リクルート・登録前研修で、明確に社会的役割を担う存在であることへの学び
- ・親子分離だけでもトラウマである。社会的に子育てのことを常に学び続けることが大事（発達・アタッチメント・トラウマ・特性・気持ちに寄り添う事・ペアレントトレーニング等研修を必ず受ける）⇒基礎研修に入れる
- ・オープンな子育て、里親家庭との繋がり、ピアでの支えあいの大切さ
- ・社会的支援を受けることの専門性（助けを求めることの専門性）
- ・里親も社会的養護のチーム一員として尊重されての養育
- ・里親の地位向上が必要-こどものケアワーカーとして同じテーブルに
- ・実親との協働：実親の子育てを手厚く支える（パートナー・ファミリー）